

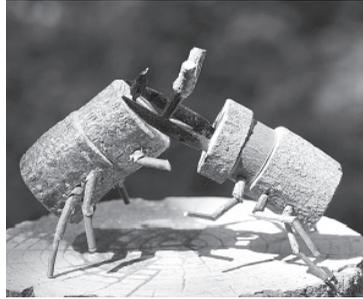
芝久保公民館

ちいさな展示会

かんぱつざい 間伐材から生まれた木の昆虫展

西原自然公園の間伐材の中から新たに命を吹き込まれた木の昆虫たちの展示です。

夏休み企画第3弾 昆虫を木でつくる講習会



間伐材の素材感を大切にしながら楽しめる木の昆虫をつくりまします。

時 8月10日(金)14時~16時
場 芝久保公民館
対 どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)
定 20人(申込順)
講 小川武雄(西原自然公園を育成する会)
¥ 200円(材料費)
申 電話または直接芝久保公民館へ

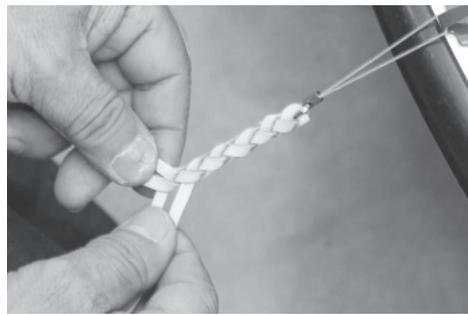
夏休み企画第4弾

エコを考えるモノ作り講習会

眠っている革製品から今回は携帯ストラップを作ります。同時に壊れた傘修理も体験。今年の夏はエコの達人になろう。

時 8月21日(火)・22日(水) 13時~15時

場 芝久保公民館
対 どなたでも(小学校3年生以下は保護者同伴)
定 各日20人(申込順)
講 山中好信(革職人)
¥ 350円(材料費)
持 不要な革製品(バック等)
申 電話かメールで芝久保公民館へ



※メールでの申込は3面参照
※本館他に年子・希望日を明記

ひばりが丘公民館

科学の本とあそび講座

楽しい実験から理科読も身につけよう!

お父さん・お母さん・お友達と一緒にあそびの中からおもしろい実験をして考える力をつけよう。科学実験は楽しいよ!

時 別表のとおり 土曜日 10時~12時

場 ひばりが丘公民館
対 市内在住の幼児(年長)~小学生・その保護者

定 子ども20人・大人10人*子どもだけの参加も可(申込多数の場合は抽選)

講 土井美香子(NPO法人カリスオ工房理事)

持 筆記用具・飲料水

申 電話かメールで8月6日(月)12時

※メールでの申込は3面参照
※本館他に年子・学年を明記

Table with 3 columns: 回 (1-5), 月日 (8/25, 9/1, 9/15, 9/29, 10/13), 内容 (実験①, 実験②, 実験③, 実験④, 実験⑤)



ひばりが丘公民館

社会問題を考える講座

準備会のお知らせ

今日的な課題について、地域でどのような学習が有効か考えます。まずはさくばらんにアイデアを出し合いましょ。

時 8月18日(土)14時~16時
場 ひばりが丘公民館
申 当日直接ひばりが丘公民館へ

保育室プレ体験

保育付き講座に、お母さんが参加している間、お子さんが2時間を過ごす公民館保育室。どんなところかな?...

☆谷戸公民館 9月5日(水)
☆芝久保公民館 9月6日(木)
☆ひばりが丘公民館 9月7日(金)

時 10時~11時半
対 6か月以上就学前の乳幼児と保護者 10組
申 8月3日(金)10時から電話で各公民館へ



ムービールーム柳沢

場 柳沢公民館
申 当日、上映30分前から受付をします。直接視聴覚室までお越しください。
定 50人(先着順です。定員に達した場合、入場をお断りすることがあります。あらかじめご了承ください。)

「カンフーパンダ」(アニメ・日本語吹替)
(2008年・アメリカ) 1時間32分
8月8日(水)14時~
監督: マーク・オスボーン、ジョン・スティーブソン
声の出演: 山口達也、笹野高史、中尾彬、木村佳乃 他

「インディージョーンズ/魔宮の伝説」
(1984年・アメリカ) 1時間58分
8月24日(金)19時~
監督: スティーブ・スピルバーグ
出演: ハリソン・フォード、ケイト・キャプショー 他

柳沢公民館

谷戸公民館

幼い子を育てている人のための講座 『とどけよう!子どもの心にお話を』
子どもの心と言葉を、豊かにはぐくむために。
時 9月19日(水)~12月5日(水)

保育付講座

詳しくは、9月号でお知らせします。

予告

芝久保公民館

小学生までの子どもを育てている女性へ 『子育て中にキャリアデザイン』
働き始めたいと思っている人の講座です。
時 9月20日(木)~12月13日(木)
申 9月7日(金)から電話で芝久保公民館へ



ひばりが丘公民館

これからの私のこと、考えてみませんか? 『女性講座~キモチつながるここちよく~』
あなたの未来予想図をつくってみませんか。
時 9月28日(金)~12月7日(金)



メールでの申込方法

メールアドレス: 1面参照
件名: 講座名
本文: 必須事項 氏名・電話番号・住所 その他(各講座の記事内に記載)
※後日確認メールを送ります。届かない場合はお手数ですが、お問合せください。

保谷駅前公民館

予告

『樹木医と巡る樹木観察』

講義と観察を予定しています。
時 9月11日(火)、18日(火)、25日(火) 10時~12時
申 9月3日(月)から。詳細は9月号で。

公運審のつら

災害支援の拠点となる 公民館との関わりについて 公運審委員 千葉桂子



昨年の東日本大震災後、現地の皆さんは余震におびえながら、公民館などの避難所生活に耐える日々でした。
私は23区内の施設を利用していましたが、突然強い揺れに襲われ、必死の思いで仲間と部屋の外に。しかし館内放送はなく、スタッフの姿も見られませんでした。
その時、日ごろ利用している西東京市の公民館の様子を思い浮かべ、今ごろはロビーで職員や利用者が顔を合わせて、共有した揺れについてあれこれ言葉を交わしているであろうと想像しました。
この体験から「単なる市民の学習や交流の施設」と「常に職員がいて、利用者と顔が見えるつながりを大事にしながら学び集う公民館」との大きな違いを実感しました。
そして、いつも公民館を利用して一人として、さらに公運審委員の一人として、有事の際に支援活動をサポートすることができないだろうかと思えるようになりました。
ひとりでは何もできないが、公民館が長い年月をかけて紡ぎ、育ててくれた人と人とのつながりや、地域の力となって活動しているグループ等が、力を合わせることで「サポート隊」が生まれるといいなと考えるこの頃です。